

酒田市合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート (事後評価)

評価実施年月：平成23年2月

1. 対象事業	酒田市合流式下水道緊急改善事業																																											
2. 実施主体名称	山形県酒田市																																											
3. 計画期間	平成17年度～平成21年度																																											
4. 対象事業の進捗状況	下記の内容について、当初計画通りに実施し完了した。 ①汚濁負荷量の削減・公衆衛生上の安全確保 ・雨水浸透ますの整備（既設雨水ますの浸透ます化） ・越流堰の嵩上げ（雨水吐室3箇所＋中継ポンプ場2箇所） ②きょう雑物の削減 ・きょう雑物除去施設を設置（雨水吐室5箇所）																																											
5. 目標の達成状況と達成の見通し	改善目標 <table border="1"><thead><tr><th>改善項目</th><th>緊急(5年以内)の改善目標</th><th>当面(10年以内)の改善目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>①汚濁負荷量の削減</td><td>全ての吐き口からの放流汚濁負荷量を分流並みに削減する。</td><td>同左</td></tr><tr><td>②公衆衛生上の安全確保</td><td>放流回数の多い雨水吐き口からの未処理放流回数を概ね半減する。</td><td>同左</td></tr><tr><td>③きょう雑物の削減</td><td>全ての吐き口できょう雑物の流出を極力防止する。</td><td>同左</td></tr></tbody></table> ①汚濁負荷量の削減 →分流並み目標値：BOD放流負荷量 94 t/年 ②公衆衛生上の安全確保 →目標越流回数：放流回数 360 回/年 ③きょう雑物の削減 →きょう雑物の流出防止：雨水吐室全5箇所にスクリーン設置  目標に対する達成状況 <table border="1"><thead><tr><th>改善項目</th><th>評価指標</th><th>平成16年度(改善前)</th><th>改善目標</th><th>平成22年度(実施後)</th></tr></thead><tbody><tr><td>緊急改善事業</td><td>合流式下水道改善率</td><td>0%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>①汚濁負荷量の削減</td><td>年間放流負荷量</td><td>104 t/年</td><td>94 t/年</td><td>93 t/年</td></tr><tr><td>②公衆衛生上の安全確保</td><td>未処理下水の放流回数</td><td>562 回/年</td><td>360 回/年</td><td>305 回/年</td></tr><tr><td rowspan="2">③きょう雑物の削減</td><td>雨水吐き室のスクリーン設置割合</td><td>0%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>きょう雑物捕捉量</td><td>0%</td><td>—</td><td>245%</td></tr></tbody></table> 改善計画をもとに事業を実施し、改善目標を達成している。			改善項目	緊急(5年以内)の改善目標	当面(10年以内)の改善目標	①汚濁負荷量の削減	全ての吐き口からの放流汚濁負荷量を分流並みに削減する。	同左	②公衆衛生上の安全確保	放流回数の多い雨水吐き口からの未処理放流回数を概ね半減する。	同左	③きょう雑物の削減	全ての吐き口できょう雑物の流出を極力防止する。	同左	改善項目	評価指標	平成16年度(改善前)	改善目標	平成22年度(実施後)	緊急改善事業	合流式下水道改善率	0%	100%	100%	①汚濁負荷量の削減	年間放流負荷量	104 t/年	94 t/年	93 t/年	②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	562 回/年	360 回/年	305 回/年	③きょう雑物の削減	雨水吐き室のスクリーン設置割合	0%	100%	100%	きょう雑物捕捉量	0%	—	245%
改善項目	緊急(5年以内)の改善目標	当面(10年以内)の改善目標																																										
①汚濁負荷量の削減	全ての吐き口からの放流汚濁負荷量を分流並みに削減する。	同左																																										
②公衆衛生上の安全確保	放流回数の多い雨水吐き口からの未処理放流回数を概ね半減する。	同左																																										
③きょう雑物の削減	全ての吐き口できょう雑物の流出を極力防止する。	同左																																										
改善項目	評価指標	平成16年度(改善前)	改善目標	平成22年度(実施後)																																								
緊急改善事業	合流式下水道改善率	0%	100%	100%																																								
①汚濁負荷量の削減	年間放流負荷量	104 t/年	94 t/年	93 t/年																																								
②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	562 回/年	360 回/年	305 回/年																																								
③きょう雑物の削減	雨水吐き室のスクリーン設置割合	0%	100%	100%																																								
	きょう雑物捕捉量	0%	—	245%																																								
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	①汚濁負荷量の削減 →目標値を上回る負荷量を削減（削減率約10%⇒約11%） ②公衆衛生上の安全確保 →目標値を上回る放流回数を削減（202回⇒257 回） ③きょう雑物の削減 →きょう雑物の河川への流出を極力抑制（1降雨10 <sup>3</sup> ℓ程度時までのきょう雑物を極力捕捉）																																											
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	・SPIRIT21の開発技術であるスクリーンを採用した。 ・雨水浸透施設と貯留施設を比較し、経済的に有利な雨水浸透施設を採用した。																																											
8. 今後の方針	・現状で改善目標を達成できていることから、今後は下水道事業を広く市民に理解してもらうための広報活動を行う。 ・治水安全度を向上させるため浸水対策施設の整備を検討する。その際、汚濁負荷量を一層削減する施策となるよう考慮する。																																											